

Divided Water

山本紉 10.14_(日)
写真展 12.16_(日)

— 展示作品解説集 —



信濃川大河津資料館

〒959-0124 新潟県燕市五千石
TEL : 0256-97-2195 FAX : 0256-97-2196
E-mail : ohkouzu@hrr.milt.go.jp

山本 紉 Tadasu Yamamoto



1950年生まれ、香川県出身。自然と人工の世界を日常から切り離し、モノクロームの写真で表現。2012年、豊田市美術館にて個展「光・水・電気」を開催。2018年、水と土の芸術祭にて11点の作品を展示。

■水と土の芸術祭

2009年から3年に1度、新潟市内で開催されている。新潟市の水と土によって形成された、独自の風土や文化に光をあてることで、人間と自然の関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントとなるものを探る芸術祭です。

写真の楽しみ方

比べる

■異なるアングルやズームサイズで比べてみる

同じ土木施設でも優しく感じる場合もあれば威厳を感じる場合もあります。

■いくつかの作品を比べてみる

洗堰と可動堰、関屋分水と山の下閘門など、同じDivided Waterな施設でも大きさ、水の流れ、持っている役割によっても雰囲気が大きく異なります。

視る

■水の流れ方を視る

荒々しい流れやゆったりとした流れが印象に大きく影響を与えます。

■土木施設を視る

少し汚れのついた感じや光の当たり具合により歴史的に感じる場合もあれば、近代的に感じる場合もあります。

巡らす

■写真の背景を読み解く

土木施設がそこにある背景を踏まえて作品をみることで、印象が変わるかもしれません。

洗堰 Araizeki



施設紹介

信濃川に毎秒270トン(270トンはおよそ25mプール1杯分)の水量を流し、越後平野を潤す役割を担います。2000(平成12)年に旧洗堰から役割を引継ぎ稼働を開始。堰の表面には桜色の御影石が配置されブロック建造物のような印象を与えます。

見どころ

近景では荒々しく水が流れている洗堰ですが、遠景では水の流れが穏やかに感じ、同じ堰とは思えない印象を受けます。また、洗堰の表面の水垢などから、厳しい自然条件の中で越後平野を潤す役割を全うし続ける姿を感じることができます。様々な姿を見せる洗堰。皆さんはどのように感じるでしょうか。

旧可動堰 Kyukadouzeki



施設紹介

上流から流れてくる水量に応じて大河津分水路へと流す水量を調節する可動堰。現在は3代目の堰にその役割をゆずり、旧可動堰として遺しています。ゲート数は元々10門あったものが3門となり、上下流は河川敷として整備され現在に至っています。1931(昭和6)年に通水してから2011(平成23)年まで81年間稼働し続けました。緑色の鉄骨と黒みを帯びた堰柱がコントラストになり、力強い印象を与える堰です。

見どころ

旧可動堰を上流側、真下、下流側の3つのアングルから撮影しており、上部の鉄骨が力強い印象を与えるもの、水面のリフレクションも加わり直線的な印象を与えるもの、斜めにのびる堰柱コンクリートが優しい印象を与えるものと、同じ旧可動堰でも感じ方が異なるようです。また、その他の被写体と異なり、唯一水の流れがない写真であり、旧可動堰の印象がストレートに伝わってくる写真のようにも見えます。

第二床固 Dainitokokatame



施設紹介

約10kmの大河津分水路の河口に位置し、水流による川底の洗掘を防ぐ役割を担っています。第二床固の上流水深は約5m、下流水深は約15mとその差が大きく、川底の洗掘が上流へと進行しないように防いでいる重要な施設です。水流に見え隠れする大きな突起物はバッフルピアと呼ばれるもので、これに水がぶつかることにより勢いが抑制され、洗掘防止に役立っています。

見どころ

円弧状の第二床固の堰頂部から滑るように流れた水が激しくバッフルピアにぶつかり勢いを削がれ、ふたたび激しく乱れる様子がわかります。一つの構造物の中で動的な流れと静的な流れが同居する印象を与え、横長のカットでその複雑な流れが一連の流れとして一目で印象づけられるように感じます。また、手前のコンクリートの乾湿部分が模様のように見え、さらに複雑な水の姿を感じるような印象を与えています。この第二床固は日々水量が異なり、日々感じる印象も変わります。ぜひ現地でもご覧になってください。

■ 関屋分水 Sekiyabunsui



施設紹介

新潟市で信濃川を分け洪水を日本海へと流すことで水害から私たちを守る一方で、海水の逆流を防ぎ飲料水を供給することにも一役買っている関屋分水。1972(昭和47)年に通水し、河口にある新潟大堰と信濃川との分派点にある信濃川水門を操作することでその役割を担い続けています。

見どころ

新潟大堰の魚道を写したもので、大きなゲートが威圧的であることとは対照的に奥から手前に穏やかに水が流れていきます。また、水流にはいくつかのうねりがあり、それらが陰影により強調され、人工の構造物が作り出す水の流れが独特な印象を与えてくれます。

■ 山の下閘門 Yamanoshitakoumon



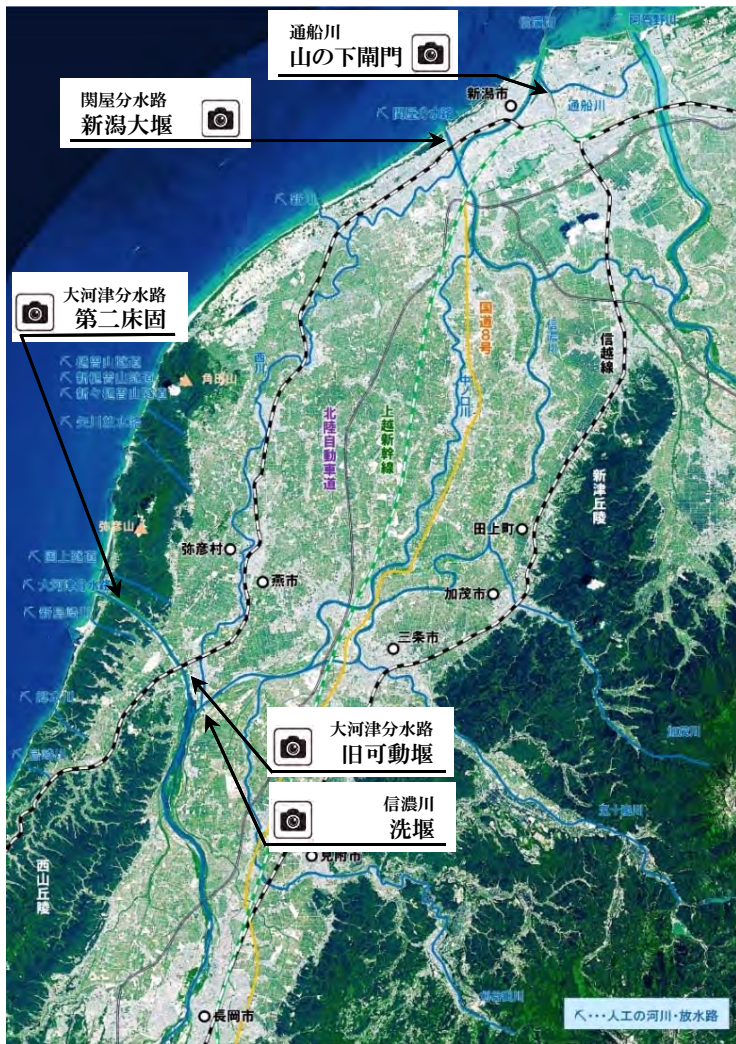
施設紹介

通船川を行き来する船を通すための施設。閘門とは運河などに設置される船のエレベーターのことで、上下流の水位が異なる場合などに利用されます。山の下閘門の両側では水位差が約2mあり、閘門により水位を調節することで船が行き来できるようにしています。なお、山の下閘門は信濃川、阿賀野川、通船川、栗ノ木川の4つの川の影響を受ける場所にあり、併設して整備されている山の下閘門排水機場と一緒に操作することで、船の航行と治水の両方を担っています。

見どころ

信濃川側と阿賀野川側を撮影したものが2枚あり、それぞれ閘門が閉まっている状態と開いている状態の2枚があります。閘門を利用する一連の船の動きがわかるとともに、閘門の開閉状態によって雰囲気異なるように感じます。また、1枚の写真、例えば、右下の写真は、手前の閘門がレトロな印象を与えるのに対して、右側の工場は昭和の面影を、左側のビル群は近未来的な印象を与え、1枚の写真の中に時代の流れを感じます。水の流れだけでなく、船の流れや、次代の流れなど、それぞれの流れを感じてください。

施設の位置



年表

西暦	元号	できごと
1907年	明治40年	大河津分水工事決定。翌々年掘削を開始。
1922年	大正11年	8月25日、開削された分水路に初めて通水。洗堰、自在堰、固定堰による流量調節開始。
1924年	大正13年	3月23日、大河津分水工事の竣工式挙行。
1927年	昭和2年	6月24日、自在堰が陥没。下流域に多大な被害発生。7月、応急工事に着手。12月、応急工事に続いて補修工事（可動堰の建設、固定堰の改修、第二床固を含む2基の床固・4基の床留の建設）に着手。
1931年	昭和6年	6月20日、補修工事竣工。可動堰、第二床固を含む2基の床固、4基の床留完成。引き続き維持工事に着手。
1938年	昭和13年	第二床固下流の洗堰に対処するための補強工事を実施（以後繰り返し実施）。
1960年	昭和35年	洗堰かさ上げ完成。
1965年	昭和40年	可動堰かさ上げ完成。
1968年	昭和43年	山の下閘門排水機場完成。
1972年	昭和47年	第二床固下流の洗堰を抑制するための第二床固副堰堤完成。また、関屋分水路通水。
1982年	昭和57年	大河津地点で史上最高水位を記録。洗堰の堰柱および取付護岸で水漏れ発生。
1990年	平成2年	第二床固下流の洗堰を抑制するために第二床固にパッフルピア完成。
1992年	平成4年	洗堰改築事業に着手。
2000年	平成12年	現在の洗堰に通水。

スポット写真

山本糾写真展セッション企画として展示した信濃川流域の写真



信濃川源流
(長野県)



大源太川第一号砂防堰堤
(新潟県湯沢町)



宮中取水ダム
(新潟県十日町市)



根小屋花と緑と雪の里
(新潟県魚沼市)



信濃川・魚野川合流点
(新潟県長岡市)



信濃川発電所
(新潟県小千谷市)



妙見堰
(新潟県長岡市)



信越本線越路橋梁
(新潟県長岡市)



長生橋
(新潟県長岡市)



新川西川立体交差
(新潟県西区)



柳都大橋
(新潟県中央区)